シリーズ
虹色のひろば

― 会員の自由な投稿のひろば ―

＜松之山だより＞ アカショウビンが鳴く里山の田んぼで

棚田農民弟子　船橋聖一

5 月 29 日の暑い日、師匠といっしょにヤマブドウ畑で蔓を固定するためのパイプを立て、それに針金を張っていた。「いっぷく」のとき静かな山里にさまざまな音が響く。作業しているときはＢＧＭだが、休んでいるとひとつひとつが聞こえてくる。「おっ、アカショウビンだ。珍しいな。あれは姿を見せないんだ」と師匠が言った。高音から低音に向かって 10 段階ぐらいで細かく音を響かせる。この鳴き声はアカショウビンだということを心に留めておきたいと思った。

今年は師匠の助言と助力を得て、「みんなで 5 畝」という米作りを始めた。元同僚たち他、44 歳になる教え子たち他、37 歳になる教え子たち他、3 つのグループができた。諸費用を払い、田植え・草刈り・稲刈りと年に 3 回松之山で遊ぶ。収穫はグループごとに決まりを決めて分配する。5 畝で収穫できる米はだいたい籾で 200 kg ぐらいだ。

田植えは終わって苗は順調に成長しているが、ひとつの 5 畝は条件の違いから一部に稗(ひえ)も生えてしまった。

6 月 22 日の早朝、私は軽トラでこの田んぼに向かった。稗抜き作業を開始しようとして田植え用の長靴を履こうとしたらアカショウビンが鳴いた。その音楽に背中を押されて田んぼに入った。腰の痛くなる作業だが嫌いじゃない。ときどき畦の斜面で休んで背中を伸ばす。4 日間毎日 2 時間田んぼに入って、苗が独立して立つようになった。

いくつかの偶然が重なって 2012 年の春に十日町市松之山で暮らす小見重義・美晴夫婦の家を訪れ、私たち夫婦と息子の配偶者の両親とで田植えを少しだけ手伝った。2009 年 4 月から平野和弘さんの勧めもあって東洋大学板倉校舎で毎週土曜日（春学期）に「教職概論」を担当していた。2012 年 6 月、学生たちを秋の稲刈り体験に誘ったら 7 人の女子学生が手を挙げた。私と平野さんも含めて 9 人で秋に 2 泊 3 日の稲刈り体験が実現した。それ以来、冬、春、秋、冬と体験ツアーが続いている。私は小見さんに「来年春(2014 年)から松之山に家を借ります。行ったり来たりの生活ですが弟子にしてくれますか。仕事は何でもします。食べる分だけのお米をください」と話した。

豪雪地帯の松之山。初雪は昨年の 12 月 6 日でこれが豪雪。この冬の最大積雪は私の住んでいる集落で 430 ㎝。降雪量でいえば 15mをこえる。一人で寝ていると潰されそうで怖かった。「秋の終り頃になると嫌ね。また雪をかまわなくてはならないのかと」「雪が始まっちゃえば春が近づくのを楽しみに毎日掘るだけ」「あんなにたくさんあったのに消えちゃうんだからほんとに不思議だ」。雪が解けはじめた 4 月初旬、待ちきれないようにお年寄りがゼンマイをとって家の前で干し、両手で揉む姿があちこちに見え始めた。

田植えの感想の一部

もう、お世辞なしにお礼をいいたい。聖一さん！「みんなで 5 畝」すばらしい体験、ほんっとにありがとう。最初から最後まで「わくわくドキドキ」とまりませんでした。ズルする事ばかりが人生じゃない、とは思わないけど、丁寧にひとつひとつ真面目に苗を植えていく。何か変わったような気が致します。・・・たぶん・・・きっと。収穫が待ち遠しいな。（43 歳Ｎ）